

# 小学校教育課程研究集会

## 〈体 育〉

石垣市立石垣小学校 宮良善起

石垣市立登野城小学校 大底和智

石垣市立石垣小学校 上原太郎

指導講師 佐事安弘（新川小教頭）

# 仲間とのかかわり合いを育む授業の工夫

—フラッグフットボールにおける作戦づくりと  
評価の工夫を通して（第6学年）—

# 研究主題設定の理由

運動に親しむ資質や能力の育成

児童相互のかかわり合いを通しての  
学習展開

児童の体力低下などの諸問題の増加

他人と協調することが苦手な児童の増大

# 研究仮説

## 研究の領域

体育学習のボール運動において、

## 手だて

作戦づくりを取り入れたフラッグフットボールに取り組み、評価の工夫を行うことで、

## 目指す児童像

仲間とかかわりながら学び合う力が育まれるであろう。

# 研究内容

1 フラッグフットボールとは

2 仲間とのかかわりとは

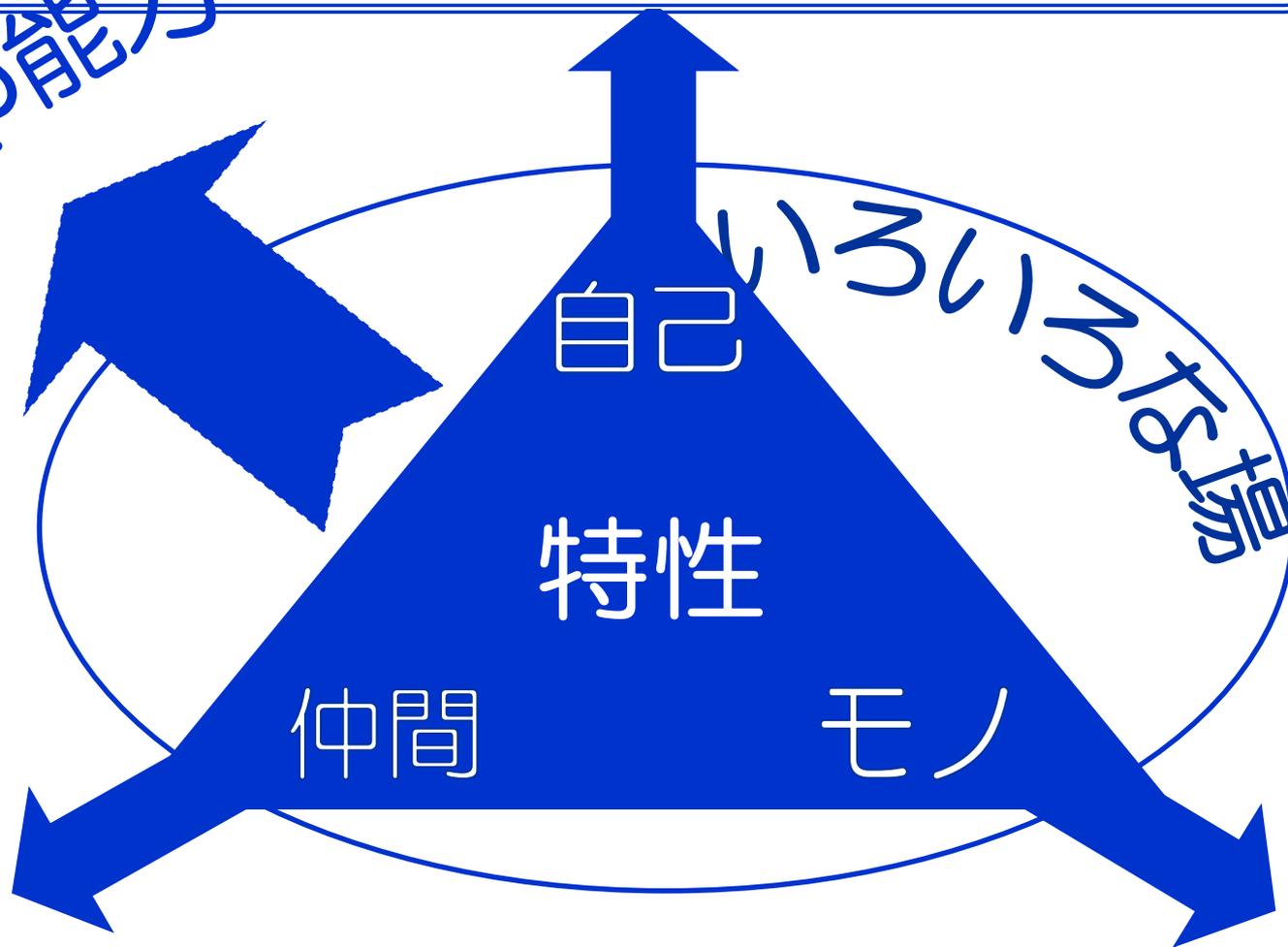
3 作戦づくりとは

4 評価の工夫とは

5 めあて学習とは

1 運動の持つ楽しさ・おもしろさとは  
(仲間とのかかわりとは)

運動に親しむ  
資質や能力



## 2 フラッグフットボールについて

教材的価値（特性）としては、ボールを持って走ることができ、一人一人それぞれの持っている能力で楽しめ、喜びを味わうことができる。また、動きが簡明なゲームであり、チーム全員で展開できる作戦を考えるために、相談したり、教え合ったり、学び合ったりすることで、仲間とのかかわりの機会をより多く設定することができるゲーム（攻守混合系・陣取りゴール形）である。



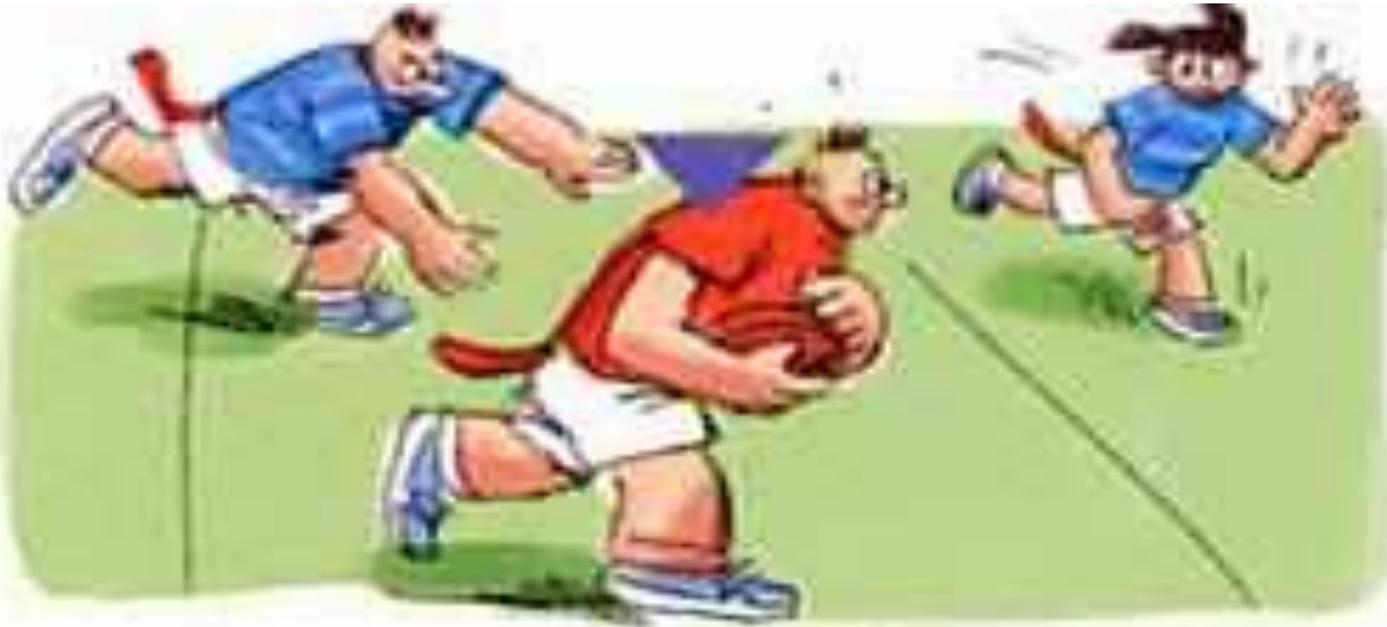


全日本フラッグフットボール協会HP <http://www.flag-football.jp/>より



味方にボールを投げる

全日本フラッグフットボール協会HP <http://www.flag-football.jp/>より



**相手をかわしながら前進**

全日本フラッグフットボール協会HP <http://www.flag-football.jp/>より



**タッチダウンで得点**

全日本フラッグフットボール協会HP <http://www.flag-football.jp/>より



Wilson

FLAG FOOTBALL  
NON-CONTACT













### 3 作戦づくりとは

タッチダウン (ねらい)

意図的なチームプレイの実現

話し合い (ハドル等)

戦術A

(個人)

戦術B

(個人)

戦術C

(個人)

戦術D

(個人)

戦術E

(個人)







## 4 評価の工夫とは

### 単元の学習過程

前半

中盤

後半

関心・意欲・態度

関心・意欲・態度

関心・意欲・態度

思考・判断

思考・判断

思考・判断

技能

技能

技能

## 5 めあて学習とは

めあて学習とは、

体育科の授業における運動領域の学習の進め方で、

☆子どもの自発性と

☆「めあて」の自己決定の

二つを重視するところに特徴を持つ学習である。

「めあて学習」の進め方としては、

「①目標を決める」、

「②解決する課題を選ぶ」、

「③活動の方法を決める」

という三つの活動を子ども自身が  
自主的に進めていくことが大切である。

# 授業実践 (指導の実際)

授業の実践  
(学習指導の工夫)

# 授業の実践

## 単元名

フラッグフットボール（全8時間）  
みんなで燃えろ！フラフト大会in6-3

# フラッグフットボール（全8時間）

ドリルゲーム

フラッグフット

作

戦

パスや動きに  
慣れる

より有効なパス  
や動きの創造

振り 返り

めあて  
カード

- 個人のめあて
- 作戦の確認
- ゲーム1
- ゲームの準備
- ゲーム2
- 振り返り
- まとめ

作戦  
カード等

作戦  
カード等

振り返り  
カード

作戦  
カード等

45分















## 動き

- レベル1・・・じっとしていない。
- レベル2・・・味方からはなれる。
- レベル3・・・誰もいないところへ動く。
- レベル4・・・誰もいないところへサッと動く。
- レベル5・・・誰もいないところへサッと声を出しながら動く。

## パス

- レベル1・・・味方にパスする。
- レベル2・・・味方に正確にパスする。
- レベル3・・・味方の動きを予想してパスする。
- レベル4・・・味方の動きを予想して正確にパスする。











# まとめと今後の課題

1 研究仮説の検証

2 成果と課題

# 研究仮説の検証

## 2 成果と課題

### 成果（児童）

- めあて学習の進め方（運動の学び方）が形成・定着  
※個人のめあての設定→チームのめあて→作戦の立案
- 個人としては運動へ対する苦手意識が先行しているが、チームでの作戦の立案やその実行において運動の楽しみを実感
- チームへの所属意識の高まり  
※チーム内での役割分担

## 2 成果と課題

### 成果（教師）

- フラッグフットボールの有効性（5・6学年連続での扱い）  
※話し合いの必要性
- ねらい1・ねらい2の「慣れる」から「楽しむ」の段階的な学習過程の有効性  
※創る→慣れる→楽しむ
- パスや動きを中心にした系統的な指導が展開しやすい。
- 児童の自己評価・振り返りの重要性（評価へ反映）

## 2 成果と課題

### 課題

- フラッグフットボールの系統的・段階的な指導の工夫
- ボール運動における基本的技能（パス＝投げる、捕る）の指導の充実  
※各学年における系統的指導
- 評価方法の工夫

ありがとうございました。

つづく

11月9日(金) 14:15~

第28回

沖縄県学校体育研究大会  
(八重山大会)